



子供のほめ方・しかり方

校長 小林 央士

2022 のワールドカップで、大会優勝経験のあるドイツ、スペインに勝ってグループステージを 1 位で突破し、2 大会連続でノックアウトステージに進出した森保ジャパン。ベスト 8 進出は逃したものの、成長著しい日本サッカーチームに、世界中から称賛の声が集まりました。

現在開催中のアジアカップでも、森保ジャパンは優勝候補筆頭に挙げられました。期待を一身に背負ったもののベトナム戦で思わぬ苦戦、イラク戦ではまさかの黒星。あれほど森保ジャパンを讃えていたメディアは、掌を返し一斉に監督批判に回りました。高い期待の裏返しといえますが、そうした報道を耳にした監督や選手のメンタルにはどんな影響が及ぶでしょうか。少なくとも私には、プラスになるとは思えません。

プロスポーツ選手という、鍛えられたその肉体から、メンタルも強靱だと思われがちです。でも実際は違うようです。2015 年、国際プロサッカー選手会が日本人を含む現役選手 607 人、元選手 219 人へアンケート調査を行ったところ、現役サッカー選手の 38%、元選手の 35%が過去 4 週間以内に鬱または不安障害に苦しんだという結果が明らかになりました。大変に高い数値で、サッカー選手が日頃からストレスに苦しんでいることを表しています。こうした報道は、あまり表に出てきません。メディアはサッカー少年のヒーローであるプロサッカー選手は、エリートアスリートであり、高額所得者であり、強靱なフィジカルに加え、鉄のハートを備えた超人である、という虚構を広めていきます。そうした報道を受け、天井知らずに跳ね上がったファンの期待値が、監督と選手に多大なプレッシャーとストレスを与えていることは、想像に難くありません。

翻って、私たち大人や子供にも同じことがいえないでしょうか。周囲の期待ゆえ、重圧を味わったことが。

子供は、自分の心身の状態を言葉で訴えることが難しい特性をもちます。「いつも通り元気だから、大丈夫」という大人の思い込みから、周囲が異変に気付くのに時間がかかってしまうことがあります。児童精神科医として多くの業績を残された故 佐々木正美先生は、著作の中で次のように述べておられます。

「私はこれまで 40 年以上、幼児や少年、青年の精神医学の臨床をやっていましたが、その間に変化したこととして、日本人は全般的に自己愛的になってきたと感じます。自分を愛するのは大切なことですが、それが高じて、自分が望むように相手をコントロールしようとするのはどうかと思います。

例えば、自己愛の強い夫は、自分の思うように妻に変わってほしいと思うし、その逆もあります。そして、自己愛の強い人が親になると、自分の思い通りに子供を育てたいという気持ちが強くなります。

乳幼児健診や育児相談などでも、『こういう子供になってほしい』とおっしゃる親御さんがいます。自分の望む方向にわが子をみようとする、『ほめる』か『叱る』かの基準は、自分が望むような子になっているか、いないかに置き換わります。その結果、わが子に自分の思い通りになってほしくて『えらい、えらい』とほめがち。つまり、本来は子供のための『ほめる』という行為が、一歩間違えると親の自己愛を満たすための手段になってしまうことがあるのです。」

ある育児雑誌のアンケートによれば、最も多い親の悩みが「正しいしかり方がわからない」。次点が「わが子のほめるところが見つからない」とのこと。佐々木先生は、次のようにアドバイスをされました。

「決定的に必要なのは、自己肯定感を育てることです。何かができたからほめるのではなく、子供が喜んでいるとき一緒に喜ぶほうが、子供にとってはうれしいもの。喜びを分かち合うのは、最高の人間関係です。

叱るときに必要なのは自尊心を傷付けないこと。目に余る悪さをしたとき、嘘をついたとき、危険なことをした時などは叱って当然です。でもできるだけ自尊心を傷つけないようにしてしかり、子供に失意、自己否定等の負の感情をもたせないことです。」(PHP 文庫「ほめ方・叱り方・しつけ方に悩んだら読む本」より)

冒頭のサッカーに話題を戻します。ちやほやして期待を寄せていたのに、試合結果に満足いかないと、一気に掌を返して批判に回るのは、国際大会等で急に応援しだす「にわかファン」だといえます。本当にサッカーを愛しているなら、試合結果に一喜一憂することなく、たとえ期待した試合で負けても批判に明け暮れたりもせず、次の勝利を信じてチームや監督を励まし続けるはず。チームと監督の努力を信じて、何があっても最後まで応援し続けるのが本物のファンなら、子育てにも同様のことがいえると思います。

子供を心から愛し、嬉しいことは一緒に心から喜ぶこと。叱るときは人格を否定しないで、やったことのみ叱ること。厳しい糾弾を是とする社会風潮の中にあっても、子育ての基本は変わらないと思います。

小中一貫教育・相互授業参観【1/12(金)】

北谷小の児童が学習の様子を、南中学校の先生方に参観していただきました。全教職員で分担し、全ての教科・領域の授業を公開しました。春から中学校へ進学する6年生が、来年度お世話になる先生方を前に、いつもより緊張した面持ちで授業に臨んでいる様子が印象的でした。今年度はこの後、6年生を対象に中学校の先生による授業が実施される予定です。



MESHを体験・2年生【1/15(月)】

MESH(メッシュ)は、プログラミング的な思考力を高める学習ツールです。今回は、信号機が青から点滅して赤に変わるようにペアで協力して動作設定しました。考えた結果が可視化されるので、ワクワク感と達成感を味わって、どの児童もとても嬉しそうでした。



不審者対応避難訓練【1/18(木)】

今年度の避難訓練は、吉川警察署生活安全課の皆様のご協力をいただきました。

2校時、不審者役の男性巡査が2階の2年2組に侵入しました。担任が対応する間、子供たちは素早くベランダから隣の教室へ避難しました。一方、職員からの通報を受け、職員室はすぐに警察署に通報。聞きつけた職員は「さすまた」をもって現場へ駆け付けました。その間、子供たちは誘導役の職員に誘導され、体育館へ避難。不審者の侵入を阻止するため、内側からカギを掛けて安全を確保しました。また、3・4階の教室ではバリケードを築いて自分達の身を守る行動ができました。子供達が終始落ち着いて避難できたことは、今回の訓練の大きな成



警察の方によるご指導



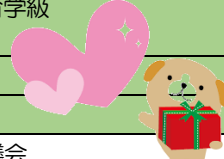
「さすまた」の使い方の研修

昔遊び・1年生【1/22(月)】

生活科で昔遊びの体験をしました。こま回し、お手玉、けん玉、めんこ、ビー玉、あや取り、羽根つき等、コツを教え合いながら楽しく活動しました。写真は、たこ揚げをしている様子です。寒さに負けず、元気いっぱい運動場を走り回っていました。



2月の行事予定

日	曜	行 事 予 定
1	木	給食費引落日
2	金	社会科見学(5年) 栄養指導(4年) 自治会連絡会
3	土	
4	日	
5	月	読み聞かせ(5年) 
6	火	
7	水	クラブ見学(3年) ベルマーク収集日
8	木	
9	金	
10	土	市P連合同家庭教育学級 PTA 資源回収 
11	日	建国記念の日
12	月	振替休日
13	火	第2回学校運営協議会
14	水	クラブ 福祉教育・点字講話(4年)
15	木	5時間授業 授業参観 図書サポート ピンク・黄色コース 給食費再引落日
16	金	5時間授業 授業参観 赤・オレンジ・水色コース
17	土	
18	日	
19	月	仲良しアンケート
20	火	
21	水	福祉教育・点字体験(4年) クラブ
22	木	花の子相談 ふれあいデー
23	金	天皇誕生日 
24	土	
25	日	
26	月	新通学班編成
27	火	福祉教育・手話体験(4年) スクールカウンセラー来校
28	水	委員会(最終)
29	木	かがやきタイム
※毎月21日あるいはその前後を「ふれあいデー」としています。1月のふれあいデーは22日(木)です。ふれあいデーの際には、職員は16:50に退勤するため、それ以降は電話等に対応することができません。ご了承くださいませよう、よろしくお願いします。		
2月	生活目標	ろう下は安全に歩こう
月	保健目標	空気の入れかえをしよう

大谷翔平選手から寄贈されたグローブが届きました！！

待ちに待ったグローブが大谷小に届き、1月29日の朝会でお披露目しました。キャッチボールをした6年生児童の顔が誇らしげでした。職員室前に展示していますので、ご来校の際はぜひご覧ください。

